

福岡県の月別気象概況（平成19年1月～12月）

福岡管区气象台

（1）1月の気象概況

1月上旬：天気は周期的に変化

上旬は高気圧と低気圧や寒気の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。1～2日は、低気圧が九州の南海上を通過した影響で、県内各地で7～23ミリの降水量を観測した。6日は、寒冷前線が南下後に、冬型の気圧配置が強まり、県内各地で1～11ミリの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を上回ったが、期間の後半は寒気の影響で平年を下回る日があったため、期間平均では概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.1～1.1℃高く、旬降水量は12～31ミリ（平年比42～108%）で平年並か少なく、旬日照時間は平年比27～80%で全ての観測所で平年を下回った。

1月中旬：天気は周期的に変化

中旬は高気圧と前線や寒気の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。16～17日は九州の南海上の前線の影響で、県内各地で8～28ミリの降水量を観測した。気温は期間の前半は概ね平年を下回ったが、後半は平年を上回り、期間を通しては平年並から高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年差-0.1～+1.0℃で、旬降水量は8～28ミリ（平年比35～88%）、旬日照時間は平年比117～159%で概ね多かった。

1月下旬：天気は周期的に変化、気温は高い

下旬は高気圧と低気圧や寒気の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。24日は低気圧が九州の南海上を通過した影響で県内各地で0～2ミリの降水量を観測した。26～29日にかけては、低気圧や寒気の影響で県内各地で0～32ミリの降水量を観測した。気温は、期間の後半は平年を下回る日もあったが、概ね平年を上回り、期間を通しては高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より1.1～1.7℃高く、旬降水量は0～34ミリ（平年比0～159%）で、旬日照時間は平年比95～120%で平年並か多かった。

(2) 2月の気象概況

2月上旬：2日は八幡で最深積雪5センチを観測、気温はかなり高い

上旬の天気は周期的に変化した。1～2日にかけては冬型の気圧配置となって、県内各地で雪が降った。特に2日は、八幡で5センチ、飯塚で3センチ、福岡で1センチの積雪を観測した。中頃は移動性高気圧に覆われて晴れて暖かかった。8～9日にかけては、低気圧が対馬海峡を通過した影響で、県内各地で5～19ミリの降水量を観測した。気温は、期間の初めは平年を下回ったが、中頃以降は平年を大きく上回ったため、期間平均では全ての観測所でかなり高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より2.8～3.8℃高く、旬降水量は5～33ミリ（平年比37～93%）で平年並、旬日照時間は平年比85～104%だった。

2月中旬：晴れの日が多い、気温は高い

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。14日は九州を南下する寒冷前線の影響で、県内各地で14～62ミリの降水量を観測した。17～18日は前線を伴った低気圧や気圧の谷の影響で、県内各地で21～39ミリの降水量を観測した。気温は期間の半ばは平年並となったが、その他は平年を上回り、期間を通しては高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より1.5～2.4℃高く、旬降水量は42～100ミリ（平年比121～197%）でほとんどの地点で多く、旬日照時間は平年比116～140%で概ねかなり多かった。

2月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い、高温少雨多照

下旬は気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。22～23日にかけては低気圧が九州の南海上を通過した影響で県内各地で3～17ミリの降水量を観測した。27日は気圧の谷の影響で県内各地で0～2ミリの降水量を観測した。気温は期間を通して平年を上回り、高くなった。なお、八幡と行橋では2月の月平均気温の高いほうからの記録を更新した。さらに行橋では2月の月間日照時間の多いほうからの記録を更新した。

県内各地の旬平均気温は平年より2.6～4.0℃高く、旬降水量は3～18ミリ（平年比11～43%）で少なく、旬日照時間は平年比135～171%でかなり多かった。

(3) 3月の気象概況

3月上旬：天気は周期的に変化、気温の変動が大きい

上旬の天気は周期的に変化した。5日は、寒冷前線の影響で、県内各地で11～30ミリの降水量を観測した。6～7日にかけては、冬型の気圧配置となり、福岡でみぞれを観測した。10日は、低気圧が九州南岸を通過した影響で、県内各地で1～7ミリの降水量を観測した。気温は、期間の前半は、4日に朝倉で夏日となるなど、平年を大きく上回ったが、後半は平年を下回り、気温の変動が大きかった。期間平均では全ての観測所で高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.9～1.8℃高く、旬降水量は12～44ミリ（平年比35～90%）で平年並か少なく、旬日照時間は平年比82～135%だった。

3月中旬：晴れの日が多い、気温は低い

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。15日は前線を伴った低気圧が九州の南岸を通過した影響で、県内各地で12～38ミリの降水量を観測した。気温は寒気が流れ込んだ影響で、期間を通して概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は平年より1.1～2.2℃低く、旬降水量は12～38ミリ（平年比35～67%）で少なく、旬日照時間は平年比110～134%だった。

3月下旬：天気は周期的に変化、気温はかなり高い、21日は福岡でソメイヨシノ開花

下旬は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。24日は低気圧が朝鮮半島から日本海を通過した影響で県内各地で15～125ミリの降水量を観測した。27日は九州南岸を通過した低気圧の影響で県内各地で0～4ミリの降水量を観測した。30～31日は低気圧や気圧の谷の影響で県内各地で0～39ミリの降水量を観測した。気温は、期間の初めは平年を下回る日もあったが、概ね平年を上回り、期間を通してはかなり高くなった。また、21日は福岡でソメイヨシノの開花（平年より5日早く、昨年より2日早い）を観測した。

県内各地の旬平均気温は平年より2.8～4.2℃高く、旬降水量は19～147ミリ（平年比44～134%）で、旬日照時間は平年比137～174%で多かった。

(4) 4月の気象概況

4月上旬：中頃以降高気圧に覆われて晴れの日多い、降水量は少なく日照時間は多い

上旬の初めは前線や寒気の影響で曇りや雨の日があったが、中頃以降は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日は前線の影響で、県内各地で0～8ミリの降水量を観測した。3日は上空の寒気の影響で、県内各地で0～32ミリの降水量を観測した。

気温は、上旬の初めに平年を上回ったが、その他は平年並か平年より低く経過した。

県内各地の旬平均気温は平年差 $-1.5\sim+0.1^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は2～32ミリ（平年比4～50%）で平年より少なく、旬日照時間は平年比112～133%で平年より多かった。

4月中旬：天気は周期的に変化、16日は県内各地でひょうやあられを観測

中旬は高気圧と低気圧や前線が交互に通過して天気は周期的に変化した。13日は前線の影響で、県内各地で1～44ミリの降水量を観測し、雷を伴ったところもあった。16日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で、県内各地で雷を伴った5～32ミリの降水量を観測し、ひょうやあられを観測した所もあった。18日は九州の南海上を通過した低気圧の影響で、県内各地で1～18ミリの降水量を観測した。

気温は、期間の前半は平年を上回ったが、後半は平年を下回り、期間を通しては概ね平年並となった。

県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.9\sim+0.3^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は14～93ミリ（平年比39～146%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比102～120%で概ね平年並だった。

4月下旬：天気は周期的に変化

下旬は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。22日は前線の影響で県内各地で17～52ミリの降水量を観測した。24日は九州南岸を通過した低気圧の影響で県内各地で0～12ミリの降水量を観測した。30日は前線の影響で県内各地で3～8ミリの降水量を観測した。気温は、期間の前半は平年を下回る日もあったが、後半は平年を上回る日が多かった。

県内各地の旬平均気温は平年比 $-0.3\sim+1.4^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は27～70ミリ（平年比63～164%）、旬日照時間は平年比88～107%だった。

(5) 5月の気象概況

5月上旬：天気は周期的に変化

上旬は高気圧と低気圧や気圧の谷が交互に通過して天気は周期的に変化した。1日は低気圧の影響で、県内各地で5～33ミリの降水量を観測した。4～6日にかけては気圧の谷や前線の影響で、県内各地で18～71ミリの降水量を観測した。10日は低気圧の影響で、県内各地で8～32ミリの降水量を観測した。

気温は、期間の中頃と終わりに平年を下回るところもあったが、その他は平年並か平年より高く経過した。

県内各地の旬平均気温は平年より0.0～1.9℃高く、旬降水量は34～103ミリ（平年比78～227%）で、旬日照時間は平年比93～118%であった。

5月中旬：天気は周期的に変化、降水量は少なく、日照時間は多い

中旬は高気圧と低気圧や前線が交互に通過して天気は周期的に変化した。12日は前線の影響で、県内各地で0～7ミリの降水量を観測した。16日は低気圧の影響で、県内各地で0～19ミリの降水量を観測した。18日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で、県内各地で雷を伴った0～25ミリの降水量を観測した。

気温は、期間の初めと終わりに平年を下回ったが、その他は平年を上回り、期間を通しては概ね平年並となった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.7～+0.8℃で、旬降水量は4～40ミリ（平年比6～43%）で少なく、旬日照時間は平年比137～170%で多くなった。

5月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多い、気温はかなり高く、日照時間はかなり多い

下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあったが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。24～25日にかけては前線を伴った低気圧の影響で県内各地で10～50ミリの降水量を観測した。気温は、期間を通してほぼ平年を上回り、かなり高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より1.5～2.4℃高く、旬降水量は10～50ミリ（平年比27～91%）、旬日照時間は平年比125～162%でかなり多かった。

(6) 6月の気象概況

6月上旬：天気は周期的に変化、6日に少雨に関する情報を発表

上旬は高気圧と低気圧や気圧の谷が交互に通過して天気は周期的に変化した。5日は気圧の谷の影響で、県内各地で0～39ミリの降水量を観測した。

また、福岡県では3月以降、高気圧に覆われて晴れの日が多く、降水量の少ない状態が続いているため、6日に少雨に関する福岡県気象情報第1号を発表した。

気温は、期間の初めと終わりに平年を下回るころもあったが、その他は平年並か平年より高く経過した。

県内各地の旬平均気温は平年比 $-0.4\sim+0.9^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は0～40ミリ（平年比0～54%）で、旬日照時間は平年比83～119%であった。

6月中旬：低気圧や前線、寒気の影響で曇りや雨の日が多い

九州北部地方は13日頃梅雨入り、18日に少雨に関する情報を発表

中旬は低気圧や前線、寒気の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。13日は前線を伴った低気圧の影響で、県内各地で1～18ミリの降水量を観測し、向こう一週間も、前線や低気圧の影響でぐずつく日が多い見込みとなったため、福岡管区気象台は「九州北部地方は13日頃梅雨入りしたと見られる」と発表した（平年は6月5日頃、去年は6月8日頃）。14～16日にかけても引き続き九州の南岸に停滞する前線の影響で、県内各地で14～51ミリの降水量を観測した。18日は上空の寒気の影響で、県内各地で雷を伴った0～18ミリの降水量を観測した。

また、3月以降、降水量の少ない状態が続いているため、18日に少雨に関する福岡県気象情報第2号を発表した。

気温は、期間の初めと中頃に平年を下回る日もあったが、その他は平年を上回り、期間を通しては概ね平年並となった。県内各地の旬平均気温は平年差 $0.0\sim+0.8^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は20～124ミリ（平年比30～108%）で、旬日照時間は平年比62～87%で概ね少なかった。

6月下旬：梅雨前線の影響は小さく降水量は少ない、気温はかなり高い

飯塚と宗像で6月の月降水量の少ないほうからの記録を更新

25日に少雨に関する情報を発表

下旬の前半を中心に低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあったが、梅雨前線の影響は小さく降水量は少なかった。21～24日にかけては梅雨前線の影響で県内各地で3～45ミリの降水量を観測した。28～29日にかけては寒冷前線の影響で県内各地で雷を伴った2～33ミリの降水量を観測した。気温は、期間の前半に平年を下回る日があったが、他は平年を上回り、かなり高くなった。また、少雨傾向が続き、飯塚と宗像で6月の月降水量の少ないほうからの記録を更新した。

また、25日に少雨に関する福岡県気象情報第3号を発表した。

県内各地の旬平均気温は平年より $1.9\sim 2.7^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は8～77ミリ（平年比4～47%）、旬日照時間は平年比77～166%だった。

(7) 7月の気象概況

7月上旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く多雨寡照

2日に朝倉で194ミリの日降水量

柳川で67ミリの1時間降水量を観測

10日に日照不足に関する福岡県気象情報を発表

上旬は梅雨前線の影響で、曇りや雨の日が多かった。2日は九州北部付近にあった梅雨前線の活動が活発となり、県内各地で34～194ミリの雷を伴った大雨となり、朝倉で194ミリの日降水量を、また柳川では67ミリの日最大1時間降水量を観測し、7月の極値を更新した。6～7日にかけては九州北部付近にあった梅雨前線の活動が活発となり、県内各地で64～289ミリの大雨となった。

また、6月13日の梅雨入り以降、日照時間がかなり少なくなっているため、10日に日照不足に関する福岡県気象情報第1号を発表した。

気温は、期間の初めは平年を上回ったが、中頃以降は平年を下回る日が多く、期間を通しては平年並となった。

県内各地の旬平均気温は平年比 $-0.8\sim+0.1^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は225～649ミリ（平年比150～371%）で、旬日照時間は平年比7～32%で県内すべての官署で多雨寡照となった。

7月中旬：梅雨前線や台風の影響で曇りや雨の日が多い

14日に台風により福岡で最大瞬間風速24.2m/sを観測

20日に日照不足に関する情報を発表

中旬は梅雨前線や台風の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。11～13日にかけては梅雨前線の影響で、県内各地で22～86ミリの降水量を観測した。14～15日にかけては、台風第4号の影響で、県内各地で6～153ミリの降水量を観測した。台風第4号は、14日14時頃に鹿児島県大隅半島に上陸後、宮崎県を通過して日向灘へ抜け、太平洋沿岸を東北東進した。県内は14日夕方には京築、筑豊地方、筑後地方が台風の暴風域に入り、福岡では18時53分に北北西の風24.2m/s、飯塚では09時14分に東北東の風22.1m/sの最大瞬間風速を観測した。

また、福岡県では7月の日照時間がかなり少なくなっているため、20日に日照不足に関する福岡県気象情報第2号を発表した。

気温は、期間の初めと終わりに平年を上回る日もあったが、その後は平年を下回り、期間を通しては低くなった。県内各地の旬平均気温は平年より $0.8\sim 1.7^{\circ}\text{C}$ 低く、旬降水量は58～243ミリ（平年比42～236%）で、旬日照時間は平年比15～66%で全ての地点で少なかった。

7月下旬：高気圧に覆われ晴れの日が多い、九州北部地方は23日頃梅雨明け

期間の初めは梅雨前線の影響で曇りの日もあったが、その後は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。このため、福岡管区气象台は23日に「九州北部地方（山口県を含む）は23日頃梅雨明けしたと見られる」と発表した（平年は7月18日頃）。気温は期間の初めと終わりに平年を下回ったが、中頃は平年を上回り、期間を通しては概ね平年並だった。

県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.9\sim+0.6^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は0～41ミリ（平年比0～54%）、旬日照時間は平年比105～156%だった。

(8) 8月の気象概況

8月上旬：台風の影響で多雨、2日に福岡で最大瞬間風速 22.4m/s を観測

英彦山で日降水量の極値を更新

上旬は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、2～3日にかけては台風第5号の影響で、県内各地で74～395ミリの降水量を観測した。台風第5号は、2日18時前に宮崎県日向市付近に上陸後、大分県を通過して瀬戸内海へ抜け、山口県に再上陸後、日本海へ進んだ。県内は2日宵の内には福岡県全域が台風の暴風域に入り、福岡では23時29分に北北西の風22.4m/s、飯塚では23時16分に北北西の風24.6m/sの最大瞬間風速を観測した。また英彦山では2日に316ミリの日降水量を観測し8月の極値を更新した。6～7日にかけては上空の寒気の影響で、県内各地で雷を伴った0～51ミリの降水量を観測した。

また、飯塚では7日16時15分に東の風37.7m/sの最大瞬間風速を観測した。

気温は、期間の中頃にかけて平年を下回る日もあったが、その他は概ね平年を上回って経過した。

県内各地の旬平均気温は平年より0.0～1.5℃高く、旬降水量は100～450ミリ(平年比191～551%)ですべての観測所で平年を上回って多雨となり、旬日照時間は平年比97～156%だった。

8月中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、高温少雨多照

11日に前原で日最高気温の高い方からの記録を更新

中旬は太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多かった。11日は前原では37.6℃の最高気温を観測し、日最高気温の高い方からの記録を更新するなど、県内で日最高気温が35℃以上の猛暑日となる場所があった。20日は上空の寒気の影響で、県内各地で雷を伴った0～24ミリの降水量を観測した。

気温は、期間を通して平年を上回り、全ての観測地点でかなり高くなった。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～2.8℃高く、旬降水量は0～24ミリ(平年比0～23%)で全ての地点で少なく、旬日照時間は平年比129～194%で全ての地点が多かった。

8月下旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高い

前原で月平均気温の高いほうからの記録を更新

21日に高温に関する情報を発表

下旬の前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、大気の状態が不安定な日もあった。後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。21～23日は太平洋高気圧の周辺部で大気の状態が不安定となり、県内各地で雷を伴った5～75ミリの降水量を観測した。28～31日は低気圧や前線の影響で、県内各地で雷を伴った4～41ミリの降水量を観測した。気温は期間の終わりに平年を下回ったが、その他は平年を上回り、期間を通して高くなった。なお、前原では、月平均気温の高いほうからの8月及び年間の記録を更新した。

また、21日に高温に関する福岡県気象情報第1号を発表した。

県内各地の旬平均気温は平年より1.1～2.1℃高く、旬降水量は21～114ミリ(平年比23～185%)、旬日照時間は平年比90～108%だった。

(9) 9月の気象概況

9月上旬：天気は周期的に変化、気温は高い

高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互にうけて天気は周期的に変化した。2～3日にかけては低気圧や気圧の谷の影響で、県内各地で雷を伴った3～63ミリの降水量を観測した。6～7日にかけては低気圧や気圧の谷の影響で、県内各地で0～27ミリの降水量を観測した。

気温は概ね平年を上回って経過し、期間を通してすべての観測所で高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.4℃高く、旬降水量は7～116ミリ（平年比11～104%）で、旬日照時間は平年比78～121%だった。

9月中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温はかなり高い

添田、黒木、前原で日最高気温の高い方からの9月の記録を更新

期間の中頃は台風第11号や前線等の影響で曇りや雨の日もあったが、その他は高気圧に覆われて晴れて暑い日が多かった。15日は添田では35.5℃、18日は黒木で36.2℃、19日は前原で36.0℃の最高気温を観測し、それぞれ日最高気温の高い方からの9月の記録を更新するなど、県内で日最高気温が35℃以上の猛暑日となる場所があった。14～17日は台風から流れ込む湿った気流や前線等の影響で、県内各地で雷を伴った18～170ミリの降水量を観測した。

気温は、期間を通して平年を上回り、全ての観測地点でかなり高くなった。県内各地の旬平均気温は平年より3.1～4.5℃高く、旬降水量は19～173ミリ（平年比36～201%）で、旬日照時間は平年比125～177%で全ての地点で多かった。

9月下旬：天気は周期的に変化、気温はかなり高い

県内全ての観測所で月平均気温の高いほうからの記録を更新

21日に高温に関する情報、27日に高温と少雨に関する情報を発表

高気圧と気圧の谷や前線の影響を交互に受けて天気は周期的に変化した。23～24日は気圧の谷の影響で、県内各地で0～12ミリの降水量を観測した。28～30日は前線の影響で、県内各地で0～9ミリの降水量を観測した。気温は期間を通して平年を大きく上回り、かなり高くなった。なお、県内すべての観測所で、月平均気温の高いほうからの9月の記録を更新した。

また、21日に高温に関する福岡県気象情報第1号を、27日に高温と少雨に関する福岡県気象情報第2号を発表した。

県内各地の旬平均気温は平年より3.7～4.8℃高く、旬降水量は0～18ミリ（平年比0～27%）、旬日照時間は平年比109～134%で少雨多照となった。

(10) 10月の気象概況

10月上旬：前半は高気圧に覆われ晴れの日が多く

後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多い、気温はかなり高い

9日は宗像で日降水量86ミリ

期間の前半は高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、期間の後半は台風第15号から変わった低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。7～9日は低気圧や前線の影響で、県内各地で40～129ミリのまとまった雨を観測した。特に9日の日降水量は宗像で86ミリを観測し、10月の日降水量の多い方からの記録を更新した。気温は期間を通して平年を上回って経過し、県内すべての観測所でかなり高くなった。

県内各地の旬平均気温は平年より3.3～4.4℃高く、旬降水量は40～129ミリ（平年比139～431%）で概ねかなり多く、旬日照時間は平年比80～106%だった。

10月中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、日照時間も多い

期間の前半は、気圧の谷の影響で曇る日もあったが、その他は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。気温は期間の初めは平年を上回ったが、中頃は概ね平年並で経過し、終わりは平年を下回る日もあった。

県内各地の旬平均気温は平年差-0.2～1.0℃で、旬降水量は0～28ミリ（平年比0～73%）で、旬日照時間は平年比110～132%で平年より多かった。

10月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温が高く、日照時間も多い

高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日は気圧の谷や前線の影響を受け、県内各地で0～31ミリの雨が降り、篠栗では日最大1時間降水量17ミリ（10月の多い方の記録更新）を観測した。気温は期間の初めは平年を下回ったが、その後は平年より高く経過した。空港北町、福岡、博多、大宰府、久留米で月平均気温の高い方からの極値をそれぞれ更新した。日照時間は県内各地で平年に比べて多かった。

県内各地の旬平均気温は平年よりも1.3～2.7℃高く、旬降水量は0～32ミリ（平年比0～190%）、旬日照時間は平年比118～130%であった。

(11) 11月の気象概況

11月上旬：前半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多く

後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった

期間の前半は、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日があったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。5～6日は気圧の谷や九州南海上の前線の影響で、県内各地で5～28ミリの降水を観測した。気温は、期間の前半は寒気が流れ込み、平年を下回った。その後は平年より高く経過した。旬日照時間は県内各地で概ね平年並であった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.4℃高く、旬降水量は5～28ミリ（平年比16～108%）、旬日照時間は平年比78～112%であった。

11月中旬：天気は周期的に変化、降水量は少なく、日照時間は多い

周期的に気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨となる日があったが、高気圧に覆われて晴れの日もあった。12日は上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、県内の沿岸部を中心に0～21ミリの降水量を観測した。20日は九州北部地方を寒冷前線が通過したが、その影響は小さく、県内各地の降水量は0～2ミリにとどまった。気温は期間の初めと後半は平年より低く経過した。特に期間の終わりに強い寒気の影響で平年をかなり下回った日もあった。日照時間は県内各地で平年に比べて多かった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.8℃低く、旬降水量は0～22ミリ（平年比0～40%）と平年より少なく、旬日照時間は平年比120～137%であった。

11月下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、降水量は少なく、日照時間は多い

30日に少雨に関する情報を発表

高気圧に覆われて晴れの日が多かった。30日は気圧の谷の影響で、県内各地で0～8ミリの雨が降った。気温は、期間の前半に平年を下回る日もあったが、それ以降は平年より高く経過した。日照時間は県内各地で平年に比べて多かった。また、28日に福岡でイロハカエデの紅葉（平年より9日遅く、昨年より5日早い）を観測した。

10月中旬から高気圧に覆われて晴れの日が多く、少雨状態が続いているため、福岡管区気象台は30日に少雨に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報第1号を発表した。なお、県内半数の観測点で11月の月降水量の少ない方からの記録を更新した。

県内各地の旬平均気温は平年差-0.6～+0.9℃で、旬降水量は0～8ミリ（平年比0～24%）と平年より少なく、旬日照時間は平年比129～160%であった。

(12) 12月の気象概況

12月上旬：天気は短い周期で変化、6日は福岡で初霜、初氷

高気圧と低気圧や前線、気圧の谷が交互に通る、天気は短い周期で変化した。2～3日にかけて寒冷前線の影響で、県内各地で15～26ミリのまとまった雨が降った。7日は、気圧の谷の影響で、県内各地で0～16ミリの降水量を観測した。10日夜は、東シナ海の低気圧の影響で、2～10ミリの雨が降った。旬平均気温は、寒気の影響を周期的に受け、県内のすべての観測点で平年より低かった。特に6日は放射冷却の影響も加わり、福岡で初霜（平年より2日、昨年より13日早い）と初氷（平年より9日、昨年より23日早い）を観測した。日照時間は県内各地で概ね多かった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.4℃低く、旬降水量は18～42ミリ（平年比88～209%）、日照時間は平年比99～119%であった。

12月中旬：前半は低気圧や気圧の谷、寒気の影響で、曇りや雨の日が多い

前半は低気圧や気圧の谷、寒気の影響を受けて曇りや雨となる日が多かった。後半は高気圧と気圧の谷が交互に通る、天気は周期的に変化した。11～13日にかけて対馬海峡を進んだ低気圧や気圧の谷、寒気の流れ込みの影響により、県内各地で6～17ミリの降水量を観測した。気温は、前半を中心に日本付近を低気圧が通過した影響で、県内各地で概ね平年を上回った。日照時間は県内各地で平年並か平年より少なかった。

県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.5℃高く、旬降水量は6～17ミリ（平年比42～127%）、日照時間は平年比65～101%であった。

12月下旬：低気圧や気圧の谷、寒気の影響で、曇りや雨または雪となる日が多い

30日は福岡で初雪を観測

低気圧や気圧の谷、寒気の影響を受けて曇りや雨または雪となる日が多かった。21～22日にかけて気圧の谷や九州南部付近を通過した低気圧の影響で、県内各地で26～53ミリの降水量を観測した。28日は気圧の谷や低気圧の影響で、県内各地で4～17ミリの降水量を観測した。また、30～31日にかけて冬型の気圧配置が強まり、県内各地で雷を伴って0～26ミリの降水を観測した。30日には福岡で初雪（平年より17日遅く、昨年より13日遅い）を観測したほか、脊振山の初冠雪（平年より26日遅く、昨年より13日遅い）を観測した。気温は、寒気の影響を受けた期間が短く、県内全ての観測所で平年よりかなり高くなった。日照時間は県内各地で平年より少なかった。

県内各地の旬平均気温は平年より2.3～3.2℃高く、旬降水量は39～94ミリ（平年比311～575%）と平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比45～61%であった。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月間降水量	月間日照時間
平成 19 年 1 月	高い	少ない	少ない
平成 19 年 2 月	かなり高い	平年並	かなり多い
平成 19 年 3 月	かなり高い	少ない	多い
平成 19 年 4 月	高い	少ない	多い
平成 19 年 5 月	かなり高い	かなり少ない	かなり多い
平成 19 年 6 月	高い	かなり少ない	平年並
平成 19 年 7 月	低い	多い	少ない
平成 19 年 8 月	かなり高い	平年並	平年並
平成 19 年 9 月	かなり高い	かなり少ない	多い
平成 19 年 10 月	かなり高い	多い	多い
平成 19 年 11 月	平年並	かなり少ない	多い
平成 19 年 12 月	高い	かなり多い	平年並

福岡の年の値の階級区分

年	年平均気温	年間降水量	年間日照時間
平成 19 年	かなり高い	少ない	多い

階級区分について

平成 13 年 1 月から使用を開始した 1971～2000 年統計値からは、「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の 3 階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」を補足的に用いることになりました。3 階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」（1：1：1）の等確率で、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」の出現率は 10%です。